営農情報

水稲

～適期刈取りで高品質米の収量を増やし、適正な乾燥・調製を行いましょう～

刈取り時期について

刈取り時期は収量や品質に大きく影響します。早刈りすると青未熟粒の混入割合が多く、遅刈りすると胴割れ粒や着色粒の割合が多くなり、検査等級が低下します。刈取り適期は栽培地域、品種、栽培方法により異なり、特にその年の気象条件により大きく変動するので、収穫時期の判定には慎重な判断が必要です。

下の5つを考慮しながら総合的に判断しますが、天候等により条件が異なりますのでご注意ください。

○出穂後の日数

早 生 種（あきたこまち等）　：出穂後45日頃
中晩生種（めんこいな・ひとめぼれ等）：出穂後50日頃

○出穂後の積算気温

早 生 種：950～1050℃（1100℃を超えると胴割粒増加）
中晩生種：1050～1150℃（1200℃を超えると胴割粒増加）

○出穂後の積算日照時間（特に日照不足年）

収量水準540kg／10ａ（全籾数28～30千粒／㎡）：190～255時間
収量水準570kg／10ａ（全籾数30～32千粒／㎡）：200～265時間
収量水準600kg／10ａ（全籾数32～34千粒／㎡）：215～280時間

○枝梗の黄化程度

主軸の上から５番目の枝梗まで黄化した頃

○籾の黄化程度

最終的には籾の黄化程度90％で決定

収穫作業について

コンバインを故障なく使うためには、使用前後の点検や整備が必要です。収穫は騒音や振動、粉塵の中で作業するため、整備と掃除、緩みの締め付け、油分の補給をしっかり行いましょう。また刈刃が摩耗している場合は随時交換しましょう。特に次の５点に気をつけてください。

①こき深さやこき胴の回転等の調節をしっかり行い、穀粒損失や損傷粒を少なく能率良く刈取りしましょう。

②脱穀はこき残しのない程度の浅めにし、わらくずの発生を少なくしましょう。

③濡れた稲などを刈取ると、籾の搬出や選別装置がつまり、損傷粒が多くなりますので、稲体が乾燥している午前10時から午後５時頃に刈取りましょう。

④収穫は乾燥機の能力に合わせ、生籾を当日中に乾燥しましょう。

⑤収穫作業は余裕を持って行い、事故防止に努めましょう。

乾燥・調製作業について

作業を行う際は、次の４点をご注意下さい。

①未熟粒や高水分籾の混入で乾燥ムラや過乾燥が発生しやすくなるので、低温二段乾燥等で乾燥ムラを防ぎます。

②事前に水分計の調整を行い、乾燥途中の籾含水率をチェックしましょう。

③乾燥作業の安全や乾燥機内の滞留籾の除去、乾燥温度の保持のため、掃除や点検整備を行い、必ず試運転してから本作業に入りましょう。

④適正なロール間隔で籾摺調製を行い、米選機のふるい目は1・90㎜を使用して、整粒歩合は80％以上を目標としてください。また機械乾燥籾は、放冷して常温にしてから調製作業に入りましょう。放冷しないと肌ずれ米が多くなり、品質が低下する可能性があります。